

# 子どもたちの明日

## Children, Our Future

2023年11月

# 138号

### 目次

- ・出張報告 1頁
- ・教材配布研修 3頁
- ・国内事業・CYR情報 4頁

## 出張報告

代表理事 藤川祥子

2023年8月13日～17日、カンボジアを訪れました。

スレイさん、ソパニーさんと一緒に保育園を回らせていただき、CYRがこれまでカンボジアの子どもたちと地域の人々に何を残してきたのか、これから何が引き継がれていくのかを感じた4日間でした。この貴重な機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

私がCYKの活動に直に触れて学び、感じたことをお伝えしたいと思います。

### ソパニーさんのモニタリング

今回、コンポンチュナン州クロサストゥメイ村、コンボンバスロウタボン村にある保育園のモニタリングに同行しました。前者は開園して1年目、後者は自主運営となって1年目の園です。

まず、子どもたちのかわいらしさは衝撃的です。お遊戯やお絵描き、文字の学び、休み時間、お友だちと一緒に過ごすことが楽しい、という気持ちが溢れており、突然の訪問者である私にも、笑顔



に向けてくれました。

私がすっかり子どもたちに魅入られる一方で、担当のソパニーさんは園舎に入ると素早く部屋の隅の机に陣取り、保育の様子を観察します。赤と青、2種類のペンでびっしり埋まっていくノートは圧巻です。

振り返りの時間では、最初にソパニーさんが、より良い保育をするためのもので、批判するためではない、と保育者に伝えていたのが印象的でした。その日は、地区の担当とコンポンチュナン州教育局副局長のソペアさんもいらしており、実施された教育プログラムの項目について、良かった点、改善点の議論が交わされました。時には、今後モニタリングを引き継ぐ地区の担当者へ「評価の仕方」の指導が入ることもありました。

感動的だったのは、正直私だったら嫌になるくらいのフィードバックの波をしっかりと受け止め、次に活かそうとしている保育者の姿勢です。クロサストゥメイ村の保育者であるチュウ・サナスさんは現役の大学4年生。午前中に幼稚園

自主運営中のコンボンバスロウタボン村の幼稚園で教え、午後は学校で学んでいます。しかも当日は自分のお子さんの具合が悪かったとのこと、そんな心配を抱えながらも、子どもたちに寄り添っていました。

コンボンバスロウタボン村の保育者ケオ・スレイノッホさんは、高校中退後に村の子どもたちにボランティアで読み書きを教えていたところ、幼稚園の保育者に推薦されました。研修会に毎月参加する努力家です。訪問当時妊娠中で、大きいお腹を抱えながらも、はつらつと園児たちに向き合っていました。

子どもたちにどのように働きかけると子どもたちの関心が引き出され、学習の効果が高まるのか。熱心に議論をするソファニンさんと保育者たちの熱意が、保育の質を高め、短時間で自治体からスタンダードの認証を得ることを可能にするのだと実感しました。

幼稚園に対する村の人々の熱意と行動

CYRの「村の幼稚園」は、運営4年目から村の委員会による自主運営に移行





します。幼稚園の継続の鍵は、村の運営委員会の熱意と行動です。今回コンポンバスロウタボン村では、お孫さんが村の幼稚園に通うおじいちゃんたちで構成される運営委員会の方と話すことができました。自主運営にしてから保護者の負担を月1ドルから年4ドルとし、一方で必要な経費については熱心に村人全体に寄付を呼びかけ、園庭にコンクリートを敷いたり遊具を設置するなど、環境改善に取り組んでいます。村人の幼稚園への関心は、自主運営に移行してからむしろ高まったそうです。

特に、代表のカイ・ヨウンさんは、たまたま検査に行った病院の先生に3歳のお子さんがあるのが分かったと寄付をお願いして頂いたこともあるほど。CYKが実施している、他の幼稚園の運営委員との交流会で紹介された事例に大いに刺激を受けて行動しているそうで、「自分たちがここまで出来るとは思わなかった。驚いている」とカイさん。CYKとの関わりを通して、村の人々が自分たちの村や子どもたちの未来を変える力を得たことを、大変嬉しく思います。

トゥールポンロウ村では、2023年秋の開園が予定されていて、私は園舎を譲渡する集まりに同行しました。そこでは、村長さんや地区長さんが「幼稚園は将来の良い人材を育てる」「教育を受けることで小学校で辞めてしまう子どもや犯罪に関わってしまう人が減る」「普段、外で働く親に代わって祖父母が子どもの世話をしているが、ちょっと目が離れてしまった間に交通事故に遭って亡くなるような事例を減らせる」などの切実な思いを語ってくれました。

一方、ここでは図面と異なる園舎が出来上がる、という事件も起きていました。本来、園舎には浸水を防ぐために床を高くし、入口に階段を付ける予定でしたが実際にはありません。実は、図面通りだと、敷地内の隣にある、仏像が据えられている集会所の床

よりも高くなってしまいうために変更してしまったのです。CYKがそれを知ったのは出来上がった後のこと。スレイさんも最初は驚き、怒ったそうですが、仏像より高い位置に幼稚園の床は作れない、という信仰心の高い村人たちの思いを受け止め、無事今回の園舎引渡しとなりました。

今後、村の人々期待が叶えられるであろうことは、コンポンバスロウタボン村の様子を見ても明らかですが、やはりその源は村人の熱意と行動であることは間違いありません。

CYKの村の幼稚園事業に対する信頼感

2023年4月以降、CYKが行ってきた村の幼稚園事業のモニタリングは、コンポンチュナン州の教育局が引き継ぎ、各園へのフォローアップをすることになります。このように、村の幼稚園が地元の自治体の事業として受け継いでいただけることになった理由には、保育の質や、村の人々の行動が良い方向に変化したと評価されているだけでなく、事業がその地元自治体の関係者すべてとつながって進められていることへの信頼性が大きいと思います。

カンボジアには、CYKだけでなく、海外から様々な教育NGOが入り、事業を立ち上げています。カンボジアの「地域」には、小さい単位から「村」「地区」「郡」「州」がありますが、コンポンチュナン州教育局副局長のソペアさんによると「他のNGOは、自分たちがやりたいことを、やりやすい所(レベル)とやる」ことが多いそうです。もしその方向性が現地の人々の意識と異なっていたとしても、NGOに対しては言えない時があります。けれどもCYKはニーズの調査から行政主体の全てのレベルと話をし、意見が異なっていた場合は適切な話し合いをしながら連携を取って進めていきます。CYKが作りたい幼稚園ではなく、現地の人々が望む幼稚園です。

CYKの「村の幼稚園」は最初から

スタンダードの認証を得ることを目的としており、そのために地域の力は欠かせません。それが分かっているからこそ、現地の人々の思いをまず大事にし、CYKの幼稚園ではなく、本当の意味での「村の幼稚園」になるのです。今回の訪問では、その具体的なプロセスの一端を見ることができました。

私という人間と、カンボジアの村に住む人々とのつながり

外国を訪れた時にいつも感じることは、「世界はつながっている」ということ。ただこれまでは、ただ漠然としたつながりを感じる程度でしたが、今回の訪問では、明らかに、自分たちの行動が誰かの暮らしと未来に影響を与えるということ、誰かが行動を起こしているその源には、私たち一人ひとりがいる、ということを強く認識しました。

実は、クロサストゥメイ村に訪れた際、私は結構な人気者になりました。特に、隣接する小学校の子どもたちは積極的に近づいて来てくれ、言葉は分からなくても笑顔を交わし、ハグやハイタッチで交流しました。コンポンバスロウタボン村の幼稚園でも、子どもたちと休み時間にハイタッチしたり、おやつを配らせてもらったりしました。コンポンバスロウタボン村の運営委員会の一人の方からは「初めて日本人を見た」と言われました。小さなことかも知れませんが、このようなこと一つひとつが重要で、お互いの未来の行動につながるのだと思います。

私たちとカンボジアの村はつながっている。当たり前のことですが、日々の暮らしの中では忘れがちなことです。CYRのご支援者の皆様は40年以上、カンボジアの人々とつながり続けてくださったおかげで、私も今回改めてそれを学ぶことができました。



## 教材配布研修

CYRが教材配布研修を開始した2000年初頭、カンボジアの保育現場は、子どもの椅子と保育者の机、黒板、掲示物があれば恵まれたほうでした。保育者が保育内容を豊かにするため何かやりたいと考えても、文房具さえ無い。ましてや、子どもが身体を使って遊びながら学べる遊具や教材はありませんでした。先生が黒板に向かってカンボジアの文字などを教えている場所に、保育教材を届けることで、より多くの子どもへの支援が実現できると考えて始めたのが教材配布研修です。なぜ、教材の配布だけではないのか。研修を行わずに配るだけであれば、同じ資金でもっと沢山の教材を製作して多くの幼稚園に届けられたかもしれません。けれども、保育者たちに集まってもらい、行政の幼児教育担当者と一緒に研修を行った上で教材を配ること、そして、一定期間が経った頃、配った幼稚園で教材がどのように使われているかをフォローアップすることをCYRは重視してきました。教育省や地域の幼児教育局と協働して実施した研修やCYRが独自で行った研

修を合わせると、2004年から2022年までの18年間で、カンボジア国内の公立幼稚園、地域幼稚園6,825教室に提供しました。本稿では、CYRが長年にわたり実践している教材配布研修事業を振り返ります。

### 教材選び

研修では、これまでCYRが作ってきた教材の中から子どもたちがよく遊ぶもの、保育者に使って欲しいものを取りあげました。歌絵本は、カンボジアで昔から親しまれた歌を集め、歌を知らない保育者にも使えるようテープを配ることを検討しました。メモリーカードを使った神経衰弱の遊びは、同じ絵を2枚ずつセットにし、裏返したカードの場所を覚えておいて同じ絵を組み合わせていくゲームです。カンボジアの絵描きさんが果物などを描いたものを元絵にしています。保育者も子どもも大喜びでゲームを楽しんでいます。クメール文字の子音パズルは、木枠の一つひとつの子音のチップをはめ込んでいく遊びで、形の違いや音と合わせて文字に自然に親しむことができます。どれだけ受け入れられるか心配でしたが保育者から歓迎され、1クラス5セットでは足りないと言われ、この幼稚園でも子どもたちが真剣に遊

んでいます。保育者が説明だけでは遊び方を理解しにくい教材もあり、研修時間を延長したり、使い方の説明書きと一緒に渡しました。

### 研修の仕方

行政の幼児教育担当は、保育者がカリキュラムにそって各保育活動の教え方を習得し、必要な教材を製作して幼稚園に持ちかえることを研修の目的にしていました。CYKの教材も、カリキュラムに取り入れた使い方を紹介。子音パズルは文字の活動、車パズルは形や数、色、絵本は物語の読み聞かせ、「子ども歌広場」は詩を教える時に使用。ボールは朝の運動時や身体能力検査テスト、人形を使って日常生活の活動を教えるなどです。研修は数日にわたる場合も多く、メリハリをつけるように工夫しました。教材の趣旨、使い方を説明し、参加者が実際に教材を使って遊んでみることを研修の中に必ず取り入れました。保育者自身がゲームの決まりを守り、面白いと感じることができ、子どもと一緒に楽しめるからです。

### フォローアップ

遊びながら学ぶという考え方が一般的でないカンボジアでは、教材の



適切な使い方が理解されているか、どんな風に教材が活用されているかを知るために、フォローアップにも力を入れました。

数ヶ月から一年たって配布した幼稚園を訪問すると、研修で学んだとおり、ほとんどのクラスが文字表や掲示物を子どもの目の高さに貼ってあり、中には机の並べ方を工夫し遊びやすい配置にした園もありました。紛失した教材は少なく、修理されたボールや人形、手作りして増やした子音パズルなどから、遊具や教材が愛用されていることが見て取れました。置く場所がない、盗まれないように職員室まで運んでいるクラスなどとても大切に保管している幼稚園が多いことがわかりました。

教材の活用方法を保育者が十分に理解しているクラスと理解していないクラスでは、子ども一人ひとりの様子や友達との関係に違いが感じられました。フォローアップを重ねることで



研修を終え、教材を持ち帰る保育者たち（シエムリアップ）

保育者が使い方を理解する重要性が浮き彫りになり、研修でも教材を作る前にその目的を説明し、使い方を実演して身につける時間を取るようにしました。

フォローアップの最後には、保育者、州の担当者、CYKの3者で、どんな点は良かったか、どんな点を改めて

もらいたいかなどを話しました。この繰り返しですが、保育者の役割の重要性、特に子どもが自分でできるようになるのを手助けするための環境を整える視点から、子どものいる現場で大人が考えねばならないことを確認する作業となったことは意義深かったです。

## 2023年9月～10月 国内事業

【東京事務所や会員・ボランティアによる織物販売活動】

9月9日、10日 東京事務所(CYR)にてピダン、緋地他を展示販売

10月7日、8日 みなと区民まつりにて展示販売

10月29日 カトリック上野教会バザー展示販売

\* 10月の展示販売は幼い難民を考える会バザーグループのブースにスペースを分けていただいたの出店でした。久しぶりに多くのボランティアのみなさまとご一緒に、楽しいイベントとなりました。



## CYR 情報

### ① 2024年度 CYR カレンダー製作販売

専用の申込書兼振込用紙に注文部数、郵送先住所氏名等をご記入の上、11月24日(金)迄にお振込ください。

### ② ふたつのチャリティコンサート

12月9日(土) 14時からと、21日(木) 18時から

聖心女子大学聖堂でCYRのためのコンサート開催  
会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227  
三菱 UFJ 銀行 六本木支店(普通) 1351747  
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会(CYR)は認定NPO法人です。  
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

### 子どもたちの明日 138号

発行日：2023年11月10日 発行者：藤川 祥子

### プノンペン事務所(CYK)

Borey Piphub Thmey Chhouk Va III, #55, St.95, Prey Sala Village, Sangkat Kakab, Khan Posen Chey, Phnom Penh, Cambodia  
TEL: (+855) 23 882 972 FAX: (+855) 23 882 971  
Email: info@cyk.org.kh  
URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

### 特定非営利活動法人幼い難民を考える会 東京事務所(CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3B  
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016  
Email: info@cyr.or.jp URL: <https://www.cyr.or.jp/>